

同性愛者向けの商店街とゲイツーリズム¹

畢 滔 滔

1. はじめに

同性愛者²に対する差別と迫害をなくす動きが世界中で広がるにつれて、多くの同性愛者観光客は、かつてのように自らの性的指向 (sexual orientation) を隠すことはせず、観光地を訪れ、現地の人々と触れ合うようになった。これによって同性愛者観光客は、かつての见えない顧客から見える市場セグメントに変わっただけではなく、共働きで子供のない、可処分所得が高い観光客として、大きく注目されるようになった。実際、2000年代後半のアメリカの場合、毎年休暇をとる人口の比率が、全米平均で64%なのに対して、同性愛者では85%にも達した (Guaracino, 2007)。また、北米における発行部数が最も多いレズビアン誌 *Curve* が、その読者に対して2011年に実施した質問票調査によると、回答者 (レズビアン) の29%は、旅行に対する年間支出額が2,000米ドルを超え、33%は支出額が1,000～2,000米ドルであったという (World Tourism Organization, 2012)。調査結果に基づいて *Curve* 誌の編集長は、「レズビアンの収入は女性の異性愛者 (heterosexual women) より高く、また、レズビアンは旅行する際にゲイに劣らないレベルの消費をしている」と結論付けた (World Tourism Organization, 2012, p.9)。2000年代半ばから、同性愛者観光客の旅行消費、いわゆるピンクドル (pink dollar) をめぐる争奪戦が多くの国・都市の間で始まり、フィンランド、スペイン、オーストラリア、カナダ、さらにアメリカのボストン市、フロリダ州、アトランタ市 (ジョージア州) など約60の国・

都市は、同性愛者観光客を誘致するキャンペーンをスタートした。

同性愛者は旅行先として、山やビーチなど自然環境が主なアトラクションであるようなリゾート地も選べば、都市もまた選ぶ。同性愛者に人気の高い都市を見てみると、アメリカのニューヨークとサンフランシスコが不動の地位を確立していることがわかる。例えば、同性愛者の消費行動を専門的に調査するリサーチ会社 Community Marketing & Insights (CMI) が 1996 年から 2013 年まで毎年行った調査によると、米国の同性愛者観光客が多く訪れる都市のランキングでは、ニューヨークとサンフランシスコが上位 2 位を独占し続けた (LGBT Travel Survey)。アメリカの最大都市であるニューヨークが同性愛者観光客の間で人気が高いことは当然として、土地面積がロサンゼルス市の十分の一、シカゴの五分之一に過ぎないサンフランシスコ市が、これらの主要な観光都市以上に、同性愛者観光客に人気が高い理由は何なのであろうか。

サンフランシスコが同性愛者観光客をひきつける最大の理由は、同市が観光客のために作り上げられたテーマパークではないことにある。サンフランシスコは、同性愛者の市民が数多く居住し、企業で働いたり、起業したり、草の根運動を行う街である。サンフランシスコの同性愛者向けの商店街は、観光客を誘引するために市当局が整備したものではない。同性愛者の起業家を含めた中小商人が、個性あふれる店舗を経営し、商店街の環境を改善して造り上げた場所であり、また、同性愛者の住民がショッピングや社交のためにひいきにする場所でもある。こうした真実性 (authenticity, Relph, 1976, p.70) は、サンフランシスコが同性愛者観光客をひきつける最大の魅力である。アメリカの著名な歴史学者 John D'Emilio は次のように指摘している。「同性愛者にとってのサンフランシスコは、カトリック教徒にとってのローマのような存在である。多くの同性愛者がサンフランシスコに住み、さらに多くの同性愛者がサンフランシスコを巡礼する。サンフランシスコでは、他のどの都市よりも同性愛のサブカルチャーが表面化し、また細分化している」 (D'Emilio, 1989, p. 456)。

こうしたサンフランシスコの「同性愛者の街」としての真実性は、どのように形成されたのか。本論文では、サンフランシスコにおける同性愛者向けの商店街に焦点を当てて、それらの商店街が同性愛者の住民および観光客に人気の高い商店街へと発展してきた歴史を明らかにする。本論文の構成は次の通りである。次の第2節では、議論のバックグラウンドとして、アメリカにおける同性愛文化の中心であり、また、同性愛者向けの商店街の中核的商業施設であるゲイバー³の特徴を説明する。第3節では、サンフランシスコに焦点をあて、ゲイバーの集積地と同性愛者向けの商店街の歴史を説明し、これらの商業集積が同市における同性愛者コミュニティの発展に及ぼした影響を明らかにする。最後に第4節では、第2節から第3節までの内容に基づき、ゲイバーの集積・商店街および「同性愛者の街」の真実性、ゲイツーリズムの関係を検討し、本論文をまとめる。

2. ゲイバー：同性愛者コミュニティの中心

2.1. アメリカにおける同性愛者に対する弾圧

同性愛者は古く世界中のいたるところにいた（Aldrich, 2010）が、13世紀に入ると、中世の西ヨーロッパにおいて、同性愛の男たちを宗教裁判所の規則に従って裁くことが一般的になった（Hergemöller, 2010）。アメリカ大陸では、16世紀から17世紀に大陸を征服したヨーロッパの植民地当局が、キリスト教的法令を施行し、同性愛をきびしく罰した（Beemyn, 2010）。アメリカ合衆国において同性愛は、「自然の法則に反する」（contravened natural law, Rizzo, 2010, p.201）ため禁じられる行為であると考えられ、18世紀末期から罪とされた（Beemyn, 2010）。このような同性愛に対する弾圧にもかかわらず、シカゴ、ニューヨーク、フィラデルフィア、サンフランシスコ、ワシントンDCなどの大都市では、19世紀末から同性愛サブカルチャーが発達した（Tamagne,

2010)。しかし、第二次世界大戦前のアメリカにおける同性愛のサブカルチャーは、非常に秘密的なものであり、同性愛者の社会的ネットワークも存在しなかった (D'Emilio, 1983a)。

アメリカにおける同性愛者のサブカルチャーが大きく発展したのは、第二次世界大戦中のことである (Berube, 2010)。戦時中、若い人びと（男性だけではなく、女性も）は入隊したり、工場で働くようになった。彼らは家族という異性愛 (heterosexuality) の環境や、故郷の田舎町や小都市から離れ、軍隊や大都市において、同性のみが居住する集合住宅という新しい環境で生活するようになった。こうして、伝統的な厳しいジェンダー関係とセクシュアリティのパターンが破壊された (D'Emilio, 1983a, 1983b, 1989; Berube, 2010; Cartier, 2013)。第二次世界大戦が、若い世代のアメリカ人に対して同性愛を体験する機会を与えたことにより、アメリカ社会において同性愛のサブカルチャーが表面化し、同性愛者のコミュニティが形成されるに至った (D'Emilio, 1989; Berube, 2010)。

同性愛のサブカルチャーが表面化するにともない、それに対する抑圧が激しくなった。戦時中、同性愛の行為が発覚した兵士や将校は軍法会議にかけられた。非強制的同性愛行為に対しては、5年以下の重労働（海軍の場合、兵士は10年以下、将校は12年）および給料と手当の没収、不名誉除隊・懲戒免職 (dishonorable discharge or dismissal) の刑が科された (Berube, 2010)。第二次世界大戦後、同性愛嫌悪 (homophobia) の風潮がさらに強まった⁴。それは、結婚を重視し、男女の役割をはっきり分けた核家族こそが、唯一の望ましいライフスタイルであるとされた結果であった (Fellows & Branson, 2010; Rizzo, 2010)。こうした社会の支配的な価値から逸脱した同性愛者は、国家に対する脅威として考えられ、彼らをきびしく罰しなければならない、という社会的コンセンサスが形成された (Rizzo, 2010; Johnson, 2006)。

戦後の長い間、同性愛者は犯罪者というだけではなく、性的倒錯者 (pervert)、

病的な (sick)、変態の (abnormal) 危険な (dangerous)、反キリスト教の (irreligious)、邪悪な (evil) 人としてみなされた (Levitt & Klassen, 1979; D'Emilio, 1989; Knopp, 1994, Johnson, 2006; Cartier, 2013)。1973 年までの間、アメリカの精神医学界では、同性愛は精神・心理障害 (mental illnesses) の一種として認定されていた (Gould, 1979; Cartier, 2013)。1950 年代、マッカーシズム (McCarthyism) の時代から始まった同性愛者狩り (lavender scare) では、同性愛者と疑われた連邦公務員は公職から追放され、こうした政策が 1975 年まで続けられた (D'Emilio, 1989; Johnson, 2006; Rizzo, 2010)。連邦レベルだけではなく、多くの州において、同性愛者を逮捕・拘束できる法律が 1970 年代まで存在した (Davison, 1982)。離婚訴訟では、女性は、同性愛者であるという理由で親権を奪われていた (Cartier, 2013)。

政府による同性愛者に対する厳しい弾圧に加えて、同性愛者に対する大衆の不信感や嫌悪感も強かった。1970 年に Levitt らの研究チームがアメリカ国立衛生研究所 (National Institutes of Health, NIH) の後援の下で行った、全米成人 3,018 人に対する調査⁵によると、回答者の四分の三は、同性愛者に聖職者および学校教師、判事の仕事に従事する権利を与えるべきではないと答え、三分の二は、医療関係と公務員の仕事に従事する権利を与えるべきではないと答えたという。また、私生活に関して、四分の三の回答者は、同性愛者が公共の場でパートナーとダンスすることに反対し、約半分の回答者は、同性愛者が社会的活動または娯楽のために組織を作ることを許可すべきではないと回答し、43%の回答者は、バーが同性愛者の顧客にサービスを提供することを許可すべきではないと答えたという (Levitt & Klassen, 1979)。

1970 年代まで、同性愛者は差別と迫害を受け続けた。そのため、彼らは住宅や雇用、医療など基本的な生存権を守るために、自身の性的指向や性自認を秘密にせざるを得なかった。一方、彼らの多くは、迫害から身を守り、また、同じライフスタイルの人々との出会いを求めるために、同性愛に不寛容な田

舎町から、多様なライフスタイルと文化が併存する大都市に移住した (Lyod & Rowntree, 1978; Harry, 1974)。ニューヨーク、サンフランシスコ、ニューオーリンズなどの大都市では、同性愛者のコミュニティが発達した。彼らの主要な社交の場はゲイバーであり⁶、大都市におけるゲイバーの集積は、同性愛者コミュニティの中心であった。1970年代まで、郊外のショッピングセンターやモールが、家父長制に基づいた幸せな異性愛核家族のための場所としてほめられた一方、都市部のゲイバーの集積地は、危険なサド・マゾヒズムグループとして蔑まれ続けた (Knopp, 1995)。しかし、実際のところ、ゲイバーとはどのような場所なのだろうか。また、ゲイバーの存在は、同性愛者コミュニティの発展と同性愛者解放運動にどのような役割を果たしたのか。次項以降では、これらの問題を説明する。

2.2. ストーンウォール事件 (Stonewall riots) 以前のゲイバー

1969年に発生したストーンウォール事件は、同性愛者解放運動 (gay liberation) の幕開けであると言われる。事件以前、ほとんどの同性愛者は、自分の性的指向を、公的生活 (public life, Rizzo, 2010)、例えば仕事や政治の場、異性愛者の友達との交友関係において秘密にした。同じ性癖を持つ人びととの社交やネットワークづくりは、主に私的領域 (private sphere, Rizzo, 2010)、例えば余暇の時間やレクリエーションの場で行われ、ゲイバーは同性愛者コミュニティの最も重要な集いの場であった (Hooker, 1967)。ストーンウォール事件以前のゲイバーは、秘密で地下組織的な性質が強かったため、この時期のゲイバーに関する詳細な研究は少ない。代表的な研究としては Hooker (1967) および Achilles (1967)、Lyod & Rowntree (1978)、Berube (2010) が挙げられる。

アメリカでは、第二次世界大戦以前から、ニューヨーク、ロサンゼルス、サンフランシスコなどの大都市にすでにゲイバーが存在したが、それが大きく発展したのは、同性愛者のコミュニティが形成された第二次世界大戦中のことで

ある (Berube, 2010)。戦時中、同性愛者の兵士は、わずか数時間しか都市に滞在できなかったため、彼らは素早くゲイライフを楽しめる場所を見つけるために、都心の近くにある商業施設に頼らざるを得なかった (Berube, 2010)。その結果、都市の中心部およびその周辺において、ゲイバーや、それに類似する同性愛者向けのカクテルラウンジ、カフェ、ナイトクラブが大いに繁盛し、ゲイバーの集積地が形成されるに至った (Boyd, 2003)。1940 年代、カリフォルニア州サンノゼ市 (San Jose)、コロラド州デンバー市 (Denver)、カンザスシティ州カンザスシティ (Kansas City) などの都市にもゲイバーが誕生した (D'Emilio, 1983a)。ゲイバーの増加はまた、同性愛のサブカルチャーと同性愛者コミュニティの発展を促進する役割を果たした。なぜならば、故郷の田舎において性的指向をひたすら隠し、孤独であった若い同性愛者たちは、大都市のゲイバーという暫定的な避難所において、自分の本性を明らかにし、他の同性愛者と出会い、自分が正常な人間であることをはじめて感じたからである (Cartier, 2013)。ゲイバーでは、同性愛者のコミュニティ独自のことばや行動コードが生まれた (Berube, 2010; Boyd, 2003)。「異性愛が唯一の正しくて自然な性のあり方」(風間・河口, 2010) であると考えられた社会において、同性愛者にとってのゲイバーは、キリスト教徒にとっての教会と同じように、コミュニティの中心となった (Cartier, 2013) ⁷。

戦後、1950 年代から 60 年代にかけて、同性愛嫌悪の風潮と政府当局の弾圧にもかかわらず、同性愛のサブカルチャーはさらに発展し、同性愛者は警察のハラスメントにさらされながらも、ゲイバーに通い続けた (Cartier, 2013) ⁸。ゲイバーという同性愛者にとって唯一のパブリックな社交の場において、同性愛者たちは昼間に被った自己保護の仮面をとり、自分に合う雰囲気の中で夜の時間を過ごした (Hooker, 1967; Cartier, 2013)。ゲイバーで同性愛者たちは、ニュースやゴシップを交換し、友達を探し、共通する関心事についてディスカッションし、抱えた生活上の問題、例えば仕事・住宅・弁護士探しなどの

問題について、友達や新たな知り合いに相談し、助けを求めた (Hooker, 1967; Fellows & Branson, 2010)。また、ゲイバーでは、同性愛者に対する警察当局の取り締まりに関する情報が速やかに流れた (Hooker, 1967)。警察の逮捕からどのように逃れるかといった経験談やアドバイスが交換され、新入りに伝えられた (Achilles, 1967)。

戦後の長い間、ゲイバーはわいせつな行為が行われる場として大衆に強く批判された。しかし、実際には、ゲイバーのオーナーは、警察の手入りを避けるために、ゲイバーにおける同性愛者の交際を厳しく管理し、顧客がゲイバーでわいせつ行為を行うことを認めなかった (Achilles, 1967; Boyd, 2003; Fellows & Branson, 2010; Cartier, 2013)。Achilles (1967) は、ゲイバーでの現地調査に基づいて、同性愛者にとってゲイバーの役割は、米軍人とその家族にとって、彼らに支援を提供するユナイテッドサービスオーガニゼーション (United Service Organizations, USO) の役割と同じものであると述べた。

1970年代まで、ゲイバーに対する警察の手入れが頻繁に行われた (Wonderling, 2008; Cartier, 2013)。そのため、ゲイバーのオーナー達は、ゲイバーと顧客を守るために、店が目立たないように、外装と内装、立地を工夫した⁹。ゲイバーの外壁は通常簡素でみすばらしく、隣接する建物と区別しにくい灰色または黄褐色に塗装され、看板も小さく、薄暗くされた。また、ゲイバーには、外から店内が見えないようパーティションが設置され、歩道に面した壁面に窓は付けられなかった (Lyod & Rowntree, 1978)。さらに、警察の手入れに対処するために、多くのゲイバーの店内には、顧客に警告サインを出すライトやベルが設置された (Achilles, 1967; Boyd, 2003)。オーナーや従業員達は、警察が近づいたことに気づくやいなや、顧客に「互いに近づいて立たないように」という警告を送った (Achilles, 1967, p.232)。また、ゲイバーの立地には、通常、都心から近い工業地区や、倉庫が集積したウォーターフロントが選ばれた。その理由は、ゲイバーがオープンする夜間には周囲の企業がすでに業務を

終えるため、ゲイバーが異性愛者の目に触れなくてすんだからである (Lyod & Rowntree, 1978)。同性愛者たちはゲイバーの雰囲気と比較し、また、一晚に複数のゲイバーを訪れる習慣があったため、ゲイバーは相互に近い場所に立地し、結果としてゲイバーの集積地が都市部に形成された。

同性愛者の人口が非常に多い都市、例えばニューヨーク、ロサンゼルス、サンフランシスコでは、ゲイバーは高い利益を得られるビジネスであった。警察の手入れによってゲイバーの寿命は短いことが多かったが、一方、その利益は異性愛者向けのバーよりはるかに高かった (Achilles, 1967)。Hooker (1967) の調査によると、1960 年代半ば、大都市において人気の高いゲイバーには、土曜日夜 10 時から翌朝 2 時までの間に、約 1,000 人の顧客が訪れたという。同性愛者がひいきにするゲイバーの近くには、レストランやカフェが次々と開業し (Lyod & Rowntree, 1978)、こうした集積地においては、夜間および週末の午後、店内だけでなく、歩道にも人がいっぱいであった。

警察は、ゲイバー集積地の歩道でおしゃべりを楽しむ人々をたびたび逮捕した (Lyod & Rowntree, 1978)。なぜならば、警察は典型的な郊外における空間の利用法、すなわち人々は車を使って車道を移動し、ショッピングセンターの中で交流するものであり、歩道を歩く人などいないという利用法こそが、唯一の正しい空間利用法であると信じ込んだからである (Lyod & Rowntree, 1978)。同性愛者は、都市に住む人種的マイノリティと同じように、街のストリートを使って社交することを好んだ。しかし警察は、家父長制に基づいた郊外の異性愛核家族とは異なるこうしたライフスタイルやコミュニケーションの方法を、まったく認めようとしなかった。

2.3. ストーンウォール事件以降のゲイバー

ストーンウォール事件以前の 1950 年代、アメリカでは、同性愛者の政治的グループが公の場にあらわれ、同性愛主義 (homophilia) 運動をはじめ

た。例えば 1953 年にロサンゼルスで設立された「マタシン協会」(Mattachine Society, ゲイの組織) と、1955 年にサンフランシスコで設立された「ビリティスの娘たち」(Daughters of Bilitis, レズビアン組織) はその代表である。しかし、これらの組織の政治的目的は、同性愛者独自のライフスタイルの正当性を主張することではなく、むしろ、同性愛者が社会の支配的な価値に従うこと (D'Emilio, 1989; Rizzo, 2010) を一般国民に示すことにあった。そのため、これらの組織は、家庭および教会、国家という世間に認められた制度と矛盾しない行動パターンをとるよう、会員たちに勧めた (Rizzo, 2010, p.206)。実際「ビリティスの娘たち」は、女性らしい服装をするように、ということまでもレズビアンたちに呼びかけた (Rizzo, 2010)。

しかし、1969 年 6 月に発生したストーンウォール事件以降の同性愛者解放運動は、それまでの運動とは大きく異なり、自らの性的指向や独自のライフスタイルを公式の社会でも主張するよう、同性愛者に呼びかけるようになった。ストーンウォール事件の引き金となったのは、1969 年 6 月 27 日深夜に、ニューヨークで人気の高かったゲイバー「ストーンウォール・イン」(Stonewall Inn) に警察の手入れがあったことであった。警察に逮捕されたゲイバーの顧客たちは、逮捕に対して激しく抵抗した。また、警察の職務質問の後に解放された顧客たちも、いつものように店から立ち去ることはせず、警察に罵声を浴びせたり、コインやレンガなどを投げつけたり、囚人護送車を攻撃したりといった明らかな反抗姿勢を見せた¹⁰。これは、ゲイの歴史の中で前例のない抗議行動であり (Rizzo, 2010)、抗議行動とその後数日間続いた暴動は、同性愛者解放運動の幕開けであった。翌年の 1970 年 6 月、ニューヨークでは約 5 千人がストーンウォール事件を記念するために大規模なデモ行進を行った。その後、ニューヨークやサンフランシスコなどの大都市では、毎年 6 月に同性愛者の人権運動を記念するパレードが行われるようになった。

1960 年代は、アメリカにおいて、人種的マイノリティの公民権運動やフェ

ミニズム運動、ベトナム戦争反戦運動が台頭した時期であり、同性愛者解放運動もまた、こうした広範な社会変革の中で、同性愛者のカミングアウトによって同性愛嫌悪をくつがえそうとした (D'Emilio, 1989)。ストーンウォール事件後、「ゲイ行動主義者連盟 (Gay Activists' Alliance)」のような行動主義グループ (activism) が誕生し、過激な活動によって、同性愛者の性的指向と独自のライフスタイルの正当性を主張した。彼らの活動によって、1973 年にアメリカ精神医学会は、同性愛を精神疾病リストから削除した。また、1975 年にアメリカ公務員人事委員会は、連邦公務員から同性愛者を排除するとした 1950 年代以来の規則を廃止し、同性愛に対する警察の取り締まりは著しく緩和された (Rizzo, 2010)。1970 年代後半になって、同性愛者、とくに白人中流階級のゲイたちは、社会のメインストリームに組み込まれるようになった (Rizzo, 2010)。

ストーンウォール事件がゲイバーで発生したこと自体に示されたように、ゲイバーは 1970 年代半ばまで、商業施設であるだけではなく、同性愛者の政治的活動と深くかかわっていた。1970 年代後半、同性愛者解放運動が成功を収めた後、同性愛サブカルチャーにおける社交と消費の場として、ゲイバーの需要は爆発的に増加し、1970 年代の終わりにゲイバーは黄金時代を迎えた (Rizzo, 2010)。1970 年代以降、アメリカのゲイバーには 2 つ大きな特徴が見られた。ひとつは、他のサブカルチャーと同じように同性愛の細分化が進んだため、ゲイバーも特定のグループの好みに対応するよう多様化した、という特徴である。Harry (1974) は、1972 年にアメリカに存在したほぼすべてのゲイバーをリストアップしたゲイバー名鑑 *Guild Guide* (1972) を分析した結果、当時アメリカで人口 5 万人以上を擁した都市には大抵ゲイバーがあり、また、大都市であるほどゲイバーの数が多く、タイプも多様であったことを明らかにした。Harry (1974) によると、1970 年代初め、はっきりと識別できるゲイバーのタイプは 9 つあった。すなわち (1) 若いゲイ向けのバー、(2) 中年や年配のゲイ向け

のバー、(3) レズビアン向けのバー、(4) アフリカ系ゲイ向けのバー、(5) ダンシングバー、(6) 男娼がいるゲイバー、(7) 顧客がバイク乗りのレザージャケットを着用し、時折サド・マゾヒズム的行為を行うレザーバー、(8) 顧客が蝶ネクタイとジャケットを着るバーおよび、(9) 会員制のゲイバーである。大都市では、多様なタイプのゲイバーが、異なる好みを持った顧客のニーズに対応したため、田舎町から大都市に移住したばかりの同性愛者や同性愛者観光客、海外からの同性愛者移民にとって、自分の好みに合う社交の場を見つけることが容易になった (Harry, 1974)。

1970 年代以降、アメリカのゲイバーに見られたもうひとつの特徴は、ゲイバーや同性愛者が経営する他のビジネスが集積して立地したという点である。こうした集積地の近くに同性愛者が住むようになり、同性愛者の住宅街と商店街から構成される同性愛者の近隣地区 (neighborhood) が形成された (Hekma, 2010)。これらの近隣地区には、同性愛者の政治・社会的組織が数多く存在し、また、ゲイバーをはじめ、スポーツ施設、小売店などの商業施設も多かったため、大勢の同性愛者観光客や移民をひきつけるようになった (Hekma, 2010)。

しかし 1980 年代に入ると、エイズ危機が同性愛者コミュニティを襲った。同性愛者の近隣地区には法律・福祉関係のグループが数多く作られ、それまで政治活動にほとんど参加しなかった同性愛者たちが政治運動に積極的に関わるようになった。これらの同性愛者団体は、エイズ感染症に対する政府やマスメディアの対応の遅さと同性愛者に対する冷たさをきびしく批判し、政府による有効な対策を促すべく戦った。こうして 1970 年代以降、同性愛者の人権運動の熱意が薄れ、消費の場へと変貌しつつあった同性愛者の近隣地区は、1980 年代のエイズ危機をきっかけに、再び同性愛者の政治活動の拠点となったのである。

3. サンフランシスコ：同性愛者向けの商店街の変遷

3.1. 19 世紀後半から第二次世界大戦まで：寛容な街

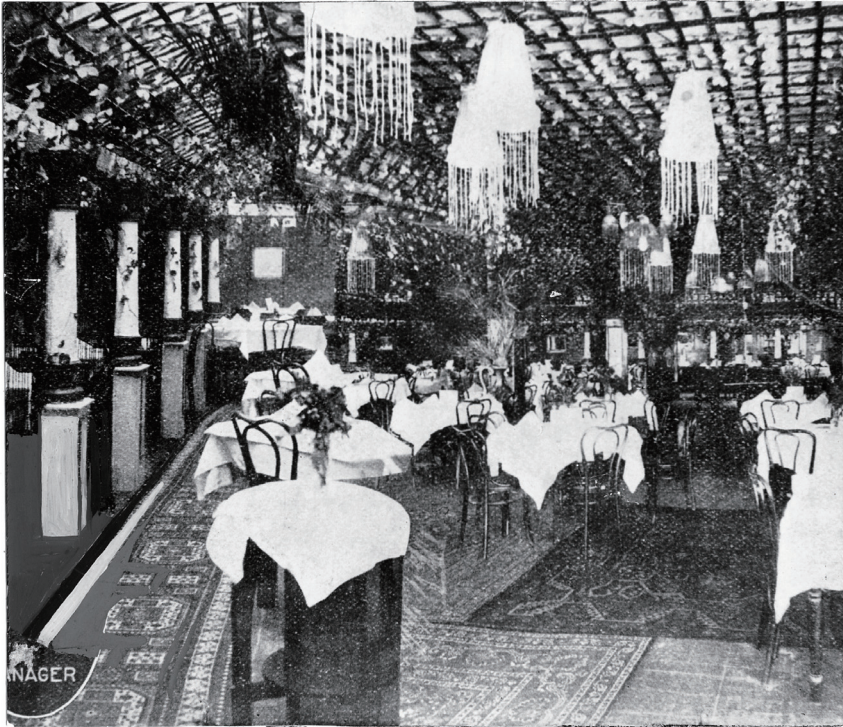
ゴールドラッシュによって発展したサンフランシスコには、19 世紀後半、独身の鉱夫や商人、投機家男性が大量に移入した。そのため、当時のサンフランシスコでは、女性の人口と比較して男性の人口が極端に多かった。また、港町であるサンフランシスコには、船員のような男性が常に数多く滞在していた。結果として、東海岸の大都市と異なり、サンフランシスコは、支配的な社会規範や慣習に従おうとしない男性が集まった都市となった。サンフランシスコにおける男性の同性愛は、このような環境で発達した。ニューヨークと並んで、同市には早くも 1900 年代すでにゲイバーが存在した。しかし、ニューヨークのゲイバーとは異なり、サンフランシスコのゲイバーは組織犯罪集団にコントロールされたものではなく (Cartier, 2013)、その多くは個人の起業家が自らの資金を投下して開業したものであった。サンフランシスコのゲイバーのオーナーたちは、自らビジネスを経営し、また自身でバーテンダーを務めることも少なくなく、オーナーが常に店にいるという点が、サンフランシスコのゲイバーの特徴のひとつでもあった (Achilles, 1967; Boyd, 2003)。サンフランシスコの初期のゲイバーは、当時「バーバリーコースト (Barbary Coast)」(Asbury, 1933/2008) と呼ばれていた、サロンやダンスホール、安酒場、キャバレー、売春宿など男性向けの娯楽施設が集積した地区に集中していた。バーバリーコーストは、今日のノースビーチ近隣地区 (North Beach neighborhood) の近くであり、19 世紀からサンフランシスコの主要な観光地でもあった。

禁酒法¹¹ (1920-1933) が廃止されてから 1954 年までの間、カリフォルニア州では、他の州とは異なり、州税務当局 (Board of Equalization, BOE) が酒類の流通と販売を管理した。BOE の最大の関心は酒税収入の確保にあったため、酒類販売免許の取り消しによってゲイバーを厳しく規制することを必ずしもし

なかった (Boyd, 2003)。1930 年代から、サンフランシスコでは、多くの起業家が酒類販売に参入し、ノースビーチとその周辺にゲイバーが急速に増加した。例えば、同市初のレズビアン向けのゲイバー Mona's¹² や、第二次世界大戦後に同市の同性愛者による草の根運動の拠点となった伝説的ゲイバー Black Cat Café (写真 1。以下、Black Cat と略す) は、いずれも 1930 年代ノースビーチで開店した (Stryker & Buskirk, 1996)¹³。サンフランシスコのゲイバーのほとんどは、男性向けの店と女性向けの店とに分かれておらず、ゲイとレズビアンが社交の場を共有するという特徴が見られた (Boyd, 2003)。また、サンフランシスコのゲイバーは、同性愛者だけではなく、ノースビーチ近隣地区に住む作家や芸人、港湾労働者の間でも人気が高かった (D'Emilio, 1989)。観光ガイド誌は、サンフランシスコのゲイバーで上演された異性装者のショーを大いに宣伝し、ツアーバスもノースビーチを回り、サンフランシスコにおける同性愛サブカルチャーを観光客に紹介した (Boyd, 2003)。1930 年代から 40 年代にかけて、ノースビーチのゲイバーの集積が観光の名所となるにつれて、メインストリートのブロードウェイストリート (Broadway Street) 沿いには、イタリアンレストラン¹⁴、カフェ、サンドイッチショップ、ジャズクラブなどが次々とオープンした。こうして形成された商業集積は、大いに繁盛した。

1940 年代から 50 年代にかけてサンフランシスコの同性愛者人口は大きく増加した (D'Emilio, 1989)。その原因は主に 3 つある。一つ目は、太平洋戦争と朝鮮戦争において、サンフランシスコ港が戦地へ出発する兵士と民間人の乗船港となったと同時に、海軍造船所などの軍事工場がアメリカ各地から多くの独身の若い労働者を集めたからである。二つ目の原因は、戦時中と戦後、同性愛者であるという理由で不名誉除隊させられた数多くの若い兵士たちが、郷里の家族や友人に顔向けできず、サンフランシスコにとどまり、同性愛者として新しい人生を切り開こうとしたことにある (Boyd, 2003)。三つ目の原因は、戦時中、サンフランシスコに短期滞在した際に初めてゲイバーを訪れ、同市の同

写真 1 サンフランシスコのゲイバー Black Cat Café



(注) Black Cat Café は、同性愛者、異性愛者の労働者や会社員、詩人などすべての人が自由に出入りできる、「アメリカにおける最高のゲイバー (the greatest gay bar in America)」(Ginsberg & Young, 1973, p.33) であるとして、ビート・ジェネレーションの代表的な詩人アレン・ギンズバーグ (Allen Ginsberg) に絶賛された。

(写真提供) San Francisco History Center, San Francisco Public Library.

性愛サブカルチャーに魅了された若い同性愛者が、戦後になっても郷里に帰らず、サンフランシスコを居住の場として選んだことにある。このように、1930年代から発達したサンフランシスコのゲイバーの集積は、同市における同性愛者人口の増加とコミュニティの拡大に重要な役割を果たした。なぜならば、ゲイバーの存在によって、同性愛者が恥ずかしがらずにいられ、社交する公共の

場を与えられたからである。また、サンフランシスコに新たに來た同性愛者も、同性愛者のコミュニティを容易に見つけることができ、それとつながることができた。

3.2. 戦後から 1960 年代終わりまで：同性愛者のための公的空間の獲得

第二次大戦後、伝統的な家族観や秩序への回帰が叫ばれた中、サンフランシスコにおいても、州および市当局によるゲイバーへの取り締まりが厳しくなり、摘発が増えた。しかし、サンフランシスコのゲイバーは、他のアメリカ大都市のゲイバーとは異なり、当局の処分に泣き寝入りせず、むしろ法廷で真正面から戦い続けた。そのため、全米規模の同性愛者解放運動こそ 1969 年のストーンウォール事件以降まで待たなければならなかったが、サンフランシスコにおいては、1950 年代からすでに大規模な運動が始まった。しかも、その運動の拠点となったのは、同性愛者の政治団体ではなく、ゲイバーであった¹⁵。戦前、サンフランシスコのゲイバーは、同市における同性愛者人口の増加に寄与したのに対して、戦後それは、商店街や近隣地区など、同性愛者の市民が生活するための都市空間の獲得に大きく貢献した。1940 年代から 70 年代まで、サンフランシスコのゲイバーと同性愛者のコミュニティの発展に大きな影響を及ぼした出来事が 3 つあった。以下では、これらの事件を説明する。

(1) 判例 *Stoumen v. Reilly*

戦後、ゲイバーをめぐる起きた最初の重要な出来事は、人気ゲイバー Black Cat が BOE に対して訴訟を起こした事件である。ことの始まりは、1949 年、「同性愛の傾向がある人々のたまり場」(Boyd, 2003, p.121) であるという理由で、BOE が Black Cat のオーナー Sol Stoumen の酒類販売免許を一時取り消すという処分を下したことにある。こうした処分に対して Stoumen は、Black Cat は同性愛者のたまり場ではないと主張し、BOE に再審査を求めた。

しかし、サンフランシスコ警察当局が Black Cat は同性愛者のたまり場であると証言したため、結局 Stoumen は酒類販売免許を取り消された。この決定に対して、1950 年に Stoumen は弁護士 Morris Lowenthal を雇い、サンフランシスコ上級裁判所 (San Francisco Superior Court) および第 1 区控訴裁判所 (the First District Court of Appeal) に上訴した。両裁判所は Stoumen の上訴を棄却し、BOE の決定を支持する判決を下した。その後、カリフォルニア州最高裁判所 (California Supreme Court) が本件を審理することに同意した。1951 年にカリフォルニア州最高裁判所は、同性愛者が公共の場所で集まる権利を認め、BOE の決定を却下し、取り消された Black Cat の酒類販売免許を元に戻すよう命じた。

この *Stoumen v. Reilly* と呼ばれる判例によって、カリフォルニア州は、同性愛者がゲイバーやその他の公共施設で集まる権利を、裁判所が初めて認めた州となった。この判決を受けて、BOE はゲイバーを摘発することを止めた (Boyd, 2003)。結果として、1950 年代前半、ノースビーチ近隣地区において、ゲイバーの従業員の多くが起業し、メインストリートであるブロードウェイストリート沿いには個性的なゲイバーが次々とオープンした (Boyd, 2003)。こうして 1950 年代、全米で同性愛者狩りが横行した中、サンフランシスコではゲイバーが当局に立ち向かい、その戦いの結果、同性愛者は生活する都市空間を獲得した。これによって、サンフランシスコは全米の同性愛者が憧れる街となり、更に多くの同性愛者が全米各地からサンフランシスコに移住した。1950 年から 60 年にかけて、サンフランシスコの単身世帯は倍増し、全世帯の 38% を占めるようになった (D'Emilio, 1989)。

(2) Jose Sarria : 市議選に立候補

1950 年代前半、*Stoumen v. Reilly* の判決によって、サンフランシスコ当局によるゲイバーに対するハラスメントは少なくなった。しかし、1950 年代後半、3 つの出来事によって、当局によるゲイバーの取り締まりは再び厳しくなっ

た。一つ目は、1955 年にカリフォルニア州酒類管理局 (California Department of Alcoholic Beverage Control, ABC) が新たに設立され、BOE に代わって酒類の製造と販売を管理するようになったことである。ABC は酒類販売の管理のあり方をめぐって、BOE 時代の酒税収入の確保から、犯罪の撲滅に重点を移し、とくにサンフランシスコのゲイバーに宣戦布告をした (Boyd, 2003)。二つ目の出来事は、1959 年に行われたサンフランシスコ市市長選挙において、現職の市長 George Christopher の対抗馬であった Russell Wolden が、不十分な取り締まりのためサンフランシスコが全米の同性愛の天国になったとして、Christopher および現職の警察署長を猛烈に批判し、地元新聞で大きな話題を呼んだことである。再選を果たした Christopher は、就任後早速新しい警察署長を任命し、ゲイバーに対する取り締まりを強化するよう、市警に指示した。三つ目の出来事は、1960 年にゲイバーのオーナーの告発により、数人のサンフランシスコ市警 (San Francisco Police Department, SFPD) 警官が、長年ゲイバーから賄賂を受け取っていた容疑で逮捕され、裁判を受けたことである。このスキャンダルは、警察と市当局をまごつかせた。

上記 3 つの出来事によって、1950 年代後半、ABC と SFPD によるゲイバーに対する取り締まりは厳しくなった。判例 *Stoumen v. Reilly* によって定められた権利を侵害することはできなかったため、ABC と SFPD は、おとり捜査員を使って、ゲイバーでわいせつ行為が行われた証拠を集めようとした。1961 年に ABC は、Black Cat¹⁶ を含め、サンフランシスコ市における約 30 店のゲイバーのうち 12 店に対して免許取り消しの処分を下し、警官収賄裁判で SFPD に不利な証言をしたゲイバーはすべて閉鎖させられた (Agee, 2014; D’Emilio, 1989)。

こうした ABC と SFPD による不当な処分に対して、ゲイバーは再び立ち上がった。1961 年、ゲイバーに対する取り締まりが最も厳しかった時期に、Black Cat の従業員で有名な女装芸人 (drag entertainer) Jose Sarria が市会議

員に立候補した。Sarria はアメリカにおける公職選挙に立候補した初めてのオープンゲイ（自らの性的指向を明らかにした同性愛者）となり、このことは1961 年秋、サンフランシスコ最大のニュースとなった。Sarria は落選したが、6 千票を獲得し、33 人の立候補者のうち第9 位（改選数5）であった（D’Emilio, 1983b; Gorman, 1998）。政治家たちは選挙における同性愛者コミュニティの力に驚かされた。Sarria の立候補は、同性愛者でも公職選挙に立候補する権利があることをゲイバーの顧客に示した。また、Sarria の選挙戦の際に創刊され、ゲイバーで無料配布された新聞は、同性愛者に対する警察の迫害に反抗し、選挙に積極的に参加することで同性愛者コミュニティの影響力を高めようと呼びかけ（D’Emilio, 1989）、ゲイバーの顧客の政治活動に対する関心を高めた。このように、1960 年代、ゲイバーはサンフランシスコにおける同性愛者の政治運動の中心であった。

(3) ゲイバーのオーナーの組織づくり

1962 年、サンフランシスコのゲイバーのオーナーたちは、ゲイバーに対する不当な処分に対抗するために、「サンフランシスコ・タバーンギルド」（San Francisco Tavern Guild, SFTG）という組織を設立した。SFTG は主に4 つの活動を行った。一つ目は、テレホンネットワークを立ち上げ、SFPD と ABC の動向を迅速にメンバーのゲイバーに伝える活動であった（Boyd, 2003; Agee, 2014）。二つ目は、ゲイバーの顧客に人気が高い仮装イベント、例えばハロウィーンパーティ（Hallowe’en ball）などを開催することで募金を募り、集まった資金を使って逮捕された顧客に弁護士を雇ったり（Agee, 2014）、警察のハラスメントによって経営難に陥ったゲイバーを救済したり、失業した従業員が起業できるよう資金を提供したりする活動（Boyd, 2003）であった。サンフランシスコでは、ゲイバーが頻繁に閉鎖させられ、その後新しいゲイバーがオープンするような状況が続いていたが、SFTG の支援によって、ゲイバーのオー

ナーと従業員の顔ぶれはほとんど変わらなかった。閉鎖させられたゲイバーのオーナーは新しいゲイバーを開店し、前の店の従業員を再び雇ったのである。Achilles (1967) が描いたように、サンフランシスコにおいて「新しくオープンしたゲイバーでは、以前閉鎖された店で流された音楽と同じ音楽がジュークボックスから流れ、同じバーテンダーがドリンクを作り、同じ顧客が現れ、同じトピックの会話が交される。そして、ほとんどの場合、ドアのそばに同じ警官が立っている」(Achilles, 1967, p.244) のであった。TGSF が行った三つ目の活動は、醸造所を見学したり、イベントでお酒のプロモーションを行ったりすることで、酒類メーカーと良い関係を築く活動であった。これによって、酒類メーカー、とくにビールメーカーは、ゲイバーと、ABC や SFPD との間の争いでゲイバーを支持する立場をとり、中にはゲイバーの訴訟費用を負担したビール会社もあった (Achilles, 1967)。1964 年から SFTG は政治活動を本格的に開始した。これこそが、SFTG が行った四つ目の活動である。SFTG はサンフランシスコ市の政治家と同性愛者とのミーティングを開き、支持する政治家のために資金および同性愛者の選挙人の票を集めた。SFTG は、たちまち政治家たちにとって無視のできない団体となった (Agee, 2014)。

1964 年、SFTG のメンバーの一部と彼らの仲間は SIR (Society for Individual Rights) という組織を作り、友情や愛情など、同性愛者の社会的欲求を正当化しようとした¹⁷。1960 年代、サンフランシスコの同性愛主義団体のメンバーは 2,000 人にも達し (D'Emilio, 1989)、全米の都市で最大規模となった。1964 年に *Life* 誌は、「アメリカの同性愛」(Homosexuality in America) という特集を組み、その中でサンフランシスコを「アメリカのゲイ・キャピタル (gay capital of the United States)」と呼び、同市のゲイバーを写真と記事を通じて大いに報道した。このように、サンフランシスコにおいて、Sarria の立候補および TGSF や SIR の活動が同性愛者の政治力を示したことにより、1960 年代後半になって SFPD によるゲイバーに対するハラスメントや、ABC による不当

な処分はほとんどなくなった (D'Emilio, 1989)。全国的な同性愛者解放運動が起きる前にもかかわらず、サンフランシスコのゲイバー関係者の草の根運動によって、カリフォルニア州やサンフランシスコ市の政治家たちは、同性愛者の票を集めるべく、同性愛者の要望を少しずつ受け入れるようになった。サンフランシスコにおける同性愛者の生活環境はさらに改善し、雑誌や新聞による頻繁な報道によって、サンフランシスコは「同性愛者に対して寛容な街 (a city that tolerated gays)」(D'Emilio, 1989, p.467) という名声を得た。こうして、さらに多くの同性愛者が同市に移入した。

3.3. 1970 年代：同性愛者の政治運動

1970 年代、同性愛者の移民が大量に流入したことにより、サンフランシスコには同性愛者の住民が集中する近隣地区が誕生し、1970 年代アメリカの新しい社会現象となった。サンフランシスコの代表的な同性愛者の近隣地区としては、ゲイの住民が集中したカストロ近隣地区 (the Castro) とサウスオブマーケット近隣地区 (South of Market) があり、レズビアン of the住民が集中した近隣地区としては、アップパーミッション (the Upper Mission) というミッション近隣地区の一部、デュボストライアングル (Duboce Triangle)、ノイバレー (Noe Valley) があった。これらの近隣地区のメインストリート沿いには、コミュニティの中心であるゲイバーをはじめ、洋服屋やベーカリーなどの物販店、映画館、法律事務所やカウンセリング、医療などのサービス店、さらに演劇グループや様々な教室、職業訓練所、教会などのコミュニティ施設から構成された商店街が栄えた (Lyod & Rowntree, 1978) ¹⁸。

1970 年代、草の根運動を継続した結果、サンフランシスコの同性愛者は、他のアメリカ都市の同性愛者と比較して、大きな政治的パワーを獲得した。この時代、同性愛者の政治活動の拠点は、同性愛者の住民が集中する近隣地区の中心に存在する商店街であった。1973 年、カミングアウトゲイであり、カス

トロ近隣地区におけるカストロ通り商店街でカメラ店を営み、商店街の商人連合会会長を務めた Harvey Milk は市会議員選挙に立候補した。2 回の落選を経た（1973 年と 75 年）後の 1977 年、Milk は、カミングアウトゲイとしてアメリカではじめて市会議員に当選した。

1977 年に、保守派のカリフォルニア州議会議員 John Briggs は、法案 Proposition 6、すなわち公立学校から同性愛者の教職員および彼らの支持者を追放するという法案を、州民投票にかけるべく提出した。法案 Proposition 6 は、カリフォルニア州史上、最も長きにわたる、最も大規模な同性愛者の政治運動を引き起こした（Shilts, 2008）。この法案提出がきっかけとなり、カリフォルニア州の各地に数多くの同性愛者の組織が設立され、サンフランシスコの同性愛者は政治運動の最先端に立った。Milk をはじめとするサンフランシスコの同性愛者の活動家たちは、法案 Proposition 6 を、同性愛者だけではなく、人種的マイノリティ、女性、さらに労働者に対する保守派の攻撃であると捉え、急進的な方法で真正面から Briggs と戦った。その結果、1978 年 3 月にサンフランシスコ市では同性愛者の権利を守る包括的な条例（gay rights bill）が市議会で承認され、また、同年 11 月に実施された州民投票の結果、法案 Proposition 6 は、反対者 60% で否決された。サンフランシスコ市における法案反対者は 75% にも達した（Shilts, 2008）。

しかし、法案 Proposition 6 が否決されてからわずか三週間後の 1978 年 11 月 27 日、サンフランシスコ市市長 George Moscone と市会議員 Milk は、元市会議員で保守派の Dan White に殺害された。1979 年 5 月 21 日、犯人 White には故殺罪 (voluntary manslaughter)¹⁹ が適用され、7 年の禁固刑という軽い判決が下った。このことが引き金となり、この判決に怒ったサンフランシスコの同性愛者たちが市役所の前で暴動を起こし、パトロールカーに火をつけたり、市役所の器物を破壊したりした（Stryker & Buskirk, 1996）。その後、暴動者に報復するために、SFPD はカストロ通り商店街のゲイバーを襲撃し、ゲイバーの顧客と外の歩道にいた同性愛者に暴行を加えた。結果として約 60 人の警察と 100 人

の同性愛者が重軽傷を負った (FitzGerald, 1986; Robinson, 2002)。混乱が収まった後、サンフランシスコ市における同性愛者の政治力をはっきりと認識した市長 Dianne Feinstein は、それまで以上に同性愛者を市の公式委員会の要職に登用するなど、積極的に同性愛者を市政の各分野に参加させた。

1970 年代から、同性愛者を含めた LGBT の平等人権を訴えるプライドパレード (Pride Parade) が、毎年 6 月に全米のいくつかの大都市で行われるようになった。サンフランシスコのパレード (SF Pride) は、参加者数が最も多いだけではなく、議員や市長など多くの政治家も参加するようになった (写真 2)。このように、サンフランシスコの同性愛者解放運動は、アメリカにおいて最も成功したものとなった。

写真 2 2014 年 SF Pride に参加したサンフランシスコ市長 Edwin Lee (LGBT のシンボルであるレインボーカラーのサングラスをかけている人)



(出所) 筆者が撮影。

3.4. 1980 年代から 90 年代：エイズとの戦い

1981 年にアメリカ疾病管理予防センター（Centers for Disease Control, 現 Centers for Disease Control and Prevention, CDC）は、ロサンゼルスでゲイのエイズ感染者が発見されたことを正式に発表した。1980 年代前半、アメリカのゲイのコミュニティでエイズ感染が急速に広がったにもかかわらず、1985 年までレーガン大統領がこの疾病について言及することはなかった（Shilts, 1987/2007）。エイズ感染に対して連邦政府の対応が著しく遅れた中、サンフランシスコのゲイのコミュニティとボランティアたちは、カストロ近隣地区を拠点に様々な団体を組織し、エイズ感染に関する情報を伝達し、エイズ感染者に臨時の住宅を提供し、彼らの世話をするなど様々なサポートを行った（Stryker & Buskirk, 1996; Armstrong, 2002）²⁰。

1980 年代初めから、サンフランシスコのゲイのコミュニティにおいてエイズ感染者が次々と発見され、死亡者が急速に増加した。疾病の正体と感染ルートに関する研究がなかなか進まず、情報が乏しかったため、ゲイの住民と彼らの親族や友人がパニックに陥った。実際、当時のサンフランシスコ市議員 Wendy Nelder が、カストロ近隣地区近くの丘「ツインピーク（Twin Peaks）」に設置されたテレビ塔が当該地区にマイクロ波を放射したことが住民発病の原因であるとマスコミに対して公言した（Peskind, 2002）ほど、エイズの感染ルートについて人々は混乱していた。こうした状況の中、カストロ通り商店街は 1970 年代の活気を完全に失い、ゲイバーだけではなく、洋服店のような物販店からも顧客がいなくなった。例えば、ある洋服店のオーナーは、1984 年頃の店の状況について次のように述べている。「私の店の顧客のうちゲイの顧客は半分だけだったが、エイズの広がりによって店の経営は一変した。（エイズの感染ルートがわからないため）異性愛者の顧客はゲイが触った洋服を試着したがらない。店には（ゲイだけではなく）異性愛者の顧客も来なくなった」（Sides, 2009, 括弧は筆者による）。

エイズが急速に蔓延する中、早くも 1981 年以降、カストロ近隣地区にエイズ感染者をサポートするボランティアグループが次々と誕生した。例えば、1982 年、ボランティアの支援の下で、3 人の男性がカストロ通り商店街に「サンフランシスコ・カポジ肉腫ファンデーション (San Francisco Kaposi's Sarcoma Foundation)」を設立した。後に「サンフランシスコ・エイズ・ファンデーション (San Francisco AIDS Foundation)」と名称を変更したこの組織は、エイズ感染に関する最新の情報を収集して患者に伝えると同時に、エイズ感染者を支援するために募金活動を始めた。また、ベイエリアのバークレーに本拠を置く、患者支援のための組織「シャンティ (Berkeley Shanti Project)」も、同じ時期に、カストロ通り商店街に拠点を作り、エイズ感染者に情報を提供し、患者の世話をを行った²¹。これらのサポート団体の存在によって、1980 年代サンフランシスコは、エイズ感染者に対して、ニューヨークなど他の都市と比較して、より良い介護を提供していた (Sides, 2009)。実際、1983 年 5 月にコロラド州デンバーで開催された、エイズ感染を中心テーマとした「同性愛者ヘルス・コンファレンス第 1 回全国大会 (the first National Gay and Lesbian Health Conference)」において、サンフランシスコ・エイズ・ファンデーションおよびシャンティは、エイズに関する教育と介護の団体として、全米のみならず世界的なモデルとなった (Peskind, 2002)。

こうしたエイズ感染者に対する組織的な支援活動だけではなく、1980 年代、個人の活動家たちによる抗議活動も、カストロ近隣地区を拠点に行われた。1982 年、カストロ近隣地区に居住し、エイズに感染した活動家たちは、エイズ関連の研究により多くの資金を投入し、またエイズ感染者にソーシャルサービスを提供するよう、市当局に強く要請した。また、同年、エイズ感染に対する当局の迅速な対応を促すために、サンフランシスコのエイズ感染者および彼らの友人、親戚、さらに彼らをサポートした数千人の市民が、市の幹線道路「マーケットストリート (Market St)」に沿ってカストロ近隣地区から市役所までキャ

ンドルライトをもってデモ行進を行った。さらに、1986年に、カストロ近隣地区のゲイの活動家 Cleve Jones は、エイズ感染症で命を失った人々を記念するため、「エイズ追悼キルトプロジェクト (Names Project Memorial Quilt)」を創始した。

1987年になって、ようやく最初のエイズ治療薬 AZT が製薬会社 Burroughs Wellcome 社によって発売されたが、薬の副作用が大きいだけではなく、年間の治療費が約 1 万ドルに達するほど非常に高価であった (Sides, 2009)。製薬会社が不当利益を得ていたことや、「アメリカ食品医薬品局 (Food and Drug Administration, FDA)」が他の治療薬をなかなか承認しなかったことに激怒した全米の活動家たちは、早速抗議グループ「アクトアップ (AIDS Coalition to Unleash Power, ACT-UP)」を組織し、サンフランシスコにおいてもアクトアップの活動組織が設立された²²。1980年代末から90年代初めにかけて、アクトアップのメンバーは複数の抗議活動を組織し、そのうちの2つは全米で大きく注目された。一つは、1989年にアクトアップのメンバー 280 名がカストロ近隣地区のメインストリート「カストロ通り (Castro St)」を3時間以上も封鎖したものである。それに対し、100人以上の SFPD の警官が、抗議者たちを「ホモ (faggots)」と呼びながら、警棒で急襲した。事件後、市長 Frank Jordan は SFPD の行動が行き過ぎたと認めた上で、SFPD の副署長を免職に処した (DeVecchio, 1989)。全米で大きな注目を浴びたもう一つの抗議活動は、1990年にサンフランシスコで「第6回国際エイズコンファレンス (the Six International conference on AIDS)」が開催された際、会場となったマリOTTホテルのドアを抗議者たちが2時間以上封鎖し、また、幹線道路マーケットストリートで500人が寝込み抗議を行ったものである (DeVecchio, 1990)。この事件はサンフランシスコで起きた最大の抗議活動であり、寝込み抗議者のうち140人が逮捕された (DeVecchio, 1990)。抗議者はエイズ治療薬の早期生産を要求し、また、エイズ感染者のアメリカ入国を拒否するとして1987年制定

の法律を撤廃するよう呼びかけた。1996年にエイズ感染者の延命を可能にする治療法が登場し、これで行くサンフランシスコにおける様々な抗議活動が終焉した。エイズ危機を乗り越えるプロセスにおいて、サンフランシスコの同性愛者コミュニティは、ゲイやレズビアン、異なる政治的主張を持つグループ同士、前例のない団結を見せた。その結果、同市は同性愛者コミュニティの世界的な中心となった。

4. おわりに

1964年、*Life* 誌がサンフランシスコを「アメリカのゲイ・キャピタル」と称し、同市のゲイバーのイメージを写真を通じて全米に伝えてから半世紀が経った。現在、サンフランシスコには、かつて以上に多くの同性愛者が住んでいる。彼らは企業で働いたり、起業したりし、また、支配的な価値観やライフスタイルに異を唱える同市の精神を受け継いで、草の根運動を続けている。サンフランシスコには、同性愛者の住民の比率が高い近隣地区がいくつも存在し、その商店街には同性愛者や異性愛者の起業家が経営する個性あふれる店が集まっている。サンフランシスコの商店街は、地元住民がショッピングを楽しむ場所であると同時に、住民同士が社交するコミュニティセンターでもある。そこで売られている商品のほとんどは、プラスチックのケーブルカーや、「サンフランシスコ」や「アルカトラズ」などの文字の入ったTシャツのような廉価な土産物ではなく、地元住民が必要とし、好んで購入する商品である。このように、今日のサンフランシスコは、かつての同性愛サブカルチャーを思わせる遺跡になったのではなく、むしろ「世界のゲイ・キャピタル (world's gay capital)」(Apell, 1998, p.94) へとさらなる発展をとげた。これは、「同性愛者の総本山 (a queer homeland)」(Howe, 2001, p.36) や「同性愛者の聖地 (sacred place)」(Mitulski, 2002, p.219) としてのサンフランシスコの真実性の現れであり、こうした真実

性こそが数多くの「同性愛者の巡礼者 (queer pilgrimage)」(Howe, 2001, p.35)をひきつけている。

サンフランシスコの「同性愛者の街」としての真実性はどのように形成されたのか。本論文は、同市のゲイバーの集積地および、同性愛者が集中する近隣地区の歴史を分析することで、この問題を検討した。本論文の結論は、次の2点にまとめることができる。

第1に、サンフランシスコの同性愛者コミュニティの発展の歴史は、同性愛者たちが自ら利用できる都市空間を獲得するために闘ってきた歴史でもあるという点である。都市部のゲイバーの集積や、同性愛者が集中する住宅地および彼らを顧客として歓迎する商店街は、こうした都市空間の代表である。家父長制に基づいた異性愛核家族こそが唯一の正しいライフスタイルであり、同性愛者を公的空間から一掃しなければならないとした戦後アメリカの支配的な価値観と不寛容に対抗する形で、サンフランシスコの同性愛者たちは、同性愛者コミュニティのための公的空間を創り上げ、その空間を守るために権力に立ち向かい続けた。こうした同性愛者の草の根運動の結果、サンフランシスコは多様性に富み、様々な価値観に寛容な街となった。このような都市の特徴に惹かれて、同性愛者がますます同市に移り住み、自らの才能を開花させた。こうして、サンフランシスコは、全米だけではなく、世界のゲイ・キャピタルになったのである。

第2に、サンフランシスコは、衰退した市街地や商店街を再活性化させるために、公的機関が公的資金を投入し、街の歴史や伝説を掘り起こして作ったテーマパークのような街とは根本的に異なるという点である。サンフランシスコの「同性愛者の街」としてのイメージは、同性愛者たちが草の根運動を続けた結果獲得したものであり、集権的でトップダウンの意思決定の結果ではない。このような本物の生活環境として「生きている」街は、変化に富み、自ずと観光客に新鮮さを提供する。これは、完成と共に工事が終わってしまうような公的

事業には、決して提供できないものである。

サンフランシスコの事例は、日本の商店街の再活性化に対しても、重要な示唆を与えている。1990年代終わり以降、観光客の誘引によって商店街を再活性化しようとする取り組みが、日本の多くの都市で見られるようになった。しかし、地元に住む顧客を呼び戻す努力をせず、補助金に頼って商店街の古い建物を修繕し、「地元の物産ばい」土産品を売ったりすることで観光マグネットになろうとする日本の商店街には、再生を遂げたところがほとんどない。商店街が再生し、持続的に発展していくためには、それが再びコミュニティの中心に回復する必要がある。この点はサンフランシスコの事例がはっきりと示している。

参考文献

- Achilles, N. (1967) The Development of the Homosexual Bar as an Institution. In Gagnon, J. H. and Simon, W. (eds) *Sexual Deviance*, New York: Harper & Row, pp. 228-244.
- Agee, C. L. (2014) *The Streets of San Francisco: Policing and the Creation of a Cosmopolitan Liberal Politics, 1950-1972*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Aldrich, R. (2010) Gay and Lesbian History. In Aldrich, R. (ed) *Gay Life and Culture: A World History*, first paperback edition. London: Thames & Hudson, pp. 7-28.
- Appell, D. (1998) *Access Gay USA*. New York: Serial.
- Armstrong, E. A. (2002) *Forging Gay Identities: Organizing Sexuality in San Francisco, 1950-1994*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Asbury, H. (1933/2008) *The Barbary Coast: An Informal History of the San Francisco*. New York: Basic Books. Originally published in 1933 by Alfred A. Knopf.
- Beemyn, B. G. (2010) The Americas: From Colonial Times to the 20th Century. In Aldrich, R. (ed) *Gay Life and Culture: A World History*, first paperback edition, London: Thames & Hudson, pp. 145-166.
- Berube, A. (2010) *Coming Out Under Fire: The History of Gay Men and Women in World War II*, 20th anniversary edition. Chapel Hill: The University of North Carolina Press.
- Boyd, N. A. (2003) *Wide-Open Town: A History of Queer San Francisco to 1965*. Berkeley: University of California Press.
- Carter, D. (2010) *Stonewall: The Riots That Sparked the Gay Revolution*, 2nd St. Martin's Griffin edition. New York: St. Martin's Press.
- Cartier, M. (2013) *Baby, You Are My Religion: Women, Gay Bars, and Theology Before Stonewall*. Durham: Acumen Publishing.
- Davison, G. C. (1982) Politics, Ethics, and Therapy for Homosexuality, *American Behavioral Scientist*, 25(4): 423-434.
- DelVecchio, Rick (1989) Chief Jordan's Explanation of Castro Sweep, *San Francisco Chronicle*, 14 December 1989, p.A4.
- DelVecchio, Rick (1990) 500 Protestors Block Market Street Traffic, *San Francisco Chronicle*, 23 June 1990, p.A11.
- D'Emilio, J. (1983a) Capitalism and Gay Identity. In Snitow, A., Stansell, C. and Thompson, S. (eds) *Powers of Desire: The Politics of Sexuality*, New York: Monthly Review Press, pp. 100-113.
- D'Emilio, J. (1983b) *Sexual Politics, Sexual Communities*, 2nd edition. Chicago: The University of Chicago Press.

- D'Emilio, J. (1989) Gay Politics and Gay Community in San Francisco since World War II. In Duberman, M., Vicinus, M. and Chauncey, G. (eds) *Hidden from History: Reclaiming the Gay and Lesbian Past*. New York: Penguin Group, pp.456-473.
- Fellows, W. and Branson, H. P. (2010) *Gay Bar: The Fabulous, True Story of a Daring Woman and Her Boys in the 1950s*. Madison: The University of Wisconsin Press.
- FitzGerald, F. (1986) *Cities on a Hill: A Brilliant Exploration of Visionary Communities Remaking the American Dream*. New York: Simon and Schuster.
- Gallo, M. M. (2006), *Different Daughters: A History of the Daughters of Bilitis and the Rise of the Lesbian Rights Movement*, 1st Carroll & Graf edition. New York: Carroll & Graf Publishers.
- Ginsberg, A. and Young, A. (1973) *Gay Sunshine Interview*. Bolinas: Grey Fox Press.
- Gorman, M. R. (1998) *The Empress is a Man: Stories From the Life of José Sarria*. New York: Harrington Park Press.
- Gould, R. E. (1979) What We Don't Know About Homosexuality. In Martin L. P. (ed.) *Gay Men: The Sociology of Male Homosexuality*. New York: Harper & Row, pp. 36-50.
- Guaracino, J. (2007), *Gay and Lesbian Tourism*. New York: Routledge.
- Harry, J. (1974) Urbanization and the Gay Life, *The Journal of Sex Research* 10(3): 238-247. doi.org/10.1080/00224497409550854
- Hekma, G. (2010) The Gay World: 1980 to the Present. In Aldrich R. (ed) *Gay Life and Culture: A World History*, first paperback edition. London: Thames & Hudson, pp. 333-363.
- Hergemöller, B. (2010) The Middle Ages. In Robert Aldrich ed. *Gay Life and Culture: A World History*, first paperback edition. London: Thames & Hudson, pp. 57-78.
- Hooker, E. (1967) The Homosexual Community. In Gagnon, J. H. and Simon, W. (eds) *Sexual Deviance*. New York: Harper & Row, pp.167-184.
- Howe, A. C. (2001) Queer Pilgrimage: The San Francisco Homeland and Identity Tourism, *Cultural Anthropology* 16(1): 35-61
- Johnson, D. K. (2006) *The Lavender Scare: the Cold War Persecution of Gays and Lesbians in the Federal Government*, paperback edition 2006. Chicago: University Of Chicago Press.
- Knopp, L. (1994) Social Justice, Sexuality, and the City, *Urban Geography* 15(7): 644-660.
- Knopp, L. (1995) Sexuality and Urban Space: A framework for Analysis. In Bell, D. and Valentine, G. (eds) *Mapping Desire: Geographies of Sexualities*. New York: Routledge, pp. 147-161.
- Lauria, M. and Knopp, L. (1985) Towards an Analysis of the Role of Gay Communities in the Urban Renaissance, *Urban Geography* 6(2): 152-169.
- Levitt, E. E. and Klassen, A. D. Jr. (1979) Public Attitudes Toward Homosexuality. In

- Martin L. P. (ed.) *Gay Men: The Sociology of Male Homosexuality*. New York: Harper & Row, pp. 19-35.
- Lyod, B. and Rowntree, L. (1978) Radical Feminists and Gay Men in San Francisco. In Lanegran, D. A. and Palm, R. (eds) *An Invitation to Geography*, 2nd edition. USA: McGraw-Hill, pp. 78-88.
- Mitulski, Jim (2002) The Castro Is a Sacred Place. In Leyland, Winston (ed) *Out in the Castro: Desire, Promise, Activism*. San Francisco: Leyland Publications, pp.219-225.
- Peskind, Steve (2002) AIDS and The Castro, June, 1981-June, 1983: A Personal Account. In Leyland, Winston (ed) *Out in the Castro: Desire, Promise, Activism*. San Francisco: Leyland Publications, pp.140-159.
- Relph, E. (1976), *Place and Placelessness*. London: Pion Limited.
- Rizzo, D. (2010) Public Spheres and Gay Politics since the Second World War. In Aldrich, R. (ed) *Gay Life and Culture: A World History*, first paperback edition. London: Thames & Hudson, pp. 197-222.
- Robinson, F. M. (2002) Castro Street, That Great Street. In Leyland, W. (ed) *Out in the Castro: Desire, Promise, Activism*. San Francisco: Leyland Publications, pp. 44-77.
- Shilts, R. (1987/2007) *And the Band Played On: Politics, People, and the AIDS Epidemic*, 20th anniversary edition. New York: St. Martin's Griffin.
- Shilts, R. (2008) *The Mayor of Castro Street: The Life and Times of Harvey Milk*, 1st St. Martin's Griffin edition. New York: St. Martin's Press.
- Sides, J. (2009) *Erotic City: Sexual Revolutions and the Making of Modern San Francisco*. New York: Oxford University Press.
- Stryker, S. and Buskirk, V. (1996) *Gay by the Bay: A History of Queer Culture in the San Francisco Bay Area*. San Francisco: Chronicle Books.
- Tamagne, F. (2010) The Homosexual Age, 1870-1940. In Aldrich, R. (ed) *Gay Life and Culture: A World History*, first paperback edition. London: Thames & Hudson, pp. 167-196.
- Wonderling, L. (2008) *San Francisco Tenderloin: True Stories of Heroes, Demons, Angels, Outcasts and a Psychotherapist*, expanded 2nd edition. Bullhead: Cape Foundation.
- World Tourism Organization (2012) Global Report on LGBT Tourism (AM Reports: Volume 3). http://dtxqt4w60xqpw.cloudfront.net/sites/all/files/pdf/unwto_globalreportlgbttourism_lw_eng.pdf
- 風間孝・河口和也 (2010) 『同性愛と異性愛』 岩波書店。

¹ 本論文で言うゲイツーリズムは、同性愛者の観光を指す。同性愛者の観光について、ゲイツーリズム (gay tourism)、ゲイ・レズビアンツーリズム (Gay and

Lesbian Tourism)、ピンクツーリズム (pink tourism)、LGBT ツーリズム (LGBT tourism) などの用語が使われているが、本論文では簡略化するために、それらを全て「ゲイツーリズム」と呼ぶ。

- ² 同性愛の行為や感情、また、そうした性癖を持つ人々に対して、西欧諸国ではこれまでいろいろな呼び方がなされてきた。例えば、ソドミー (sodomy)、ホモセクシュアリティ (homosexuality)、ゲイ (gay)、ゲイ／レズビアン (gay and lesbian)、「クイア」(queer) などの呼び方がある。また、これらの人々に両性愛者 (bisexuals) と性転換者 (transgender) が加わって、LGBT という略語も使われる。これらの用語は、歴史的文脈も異なれば、表わした同性愛に対する見方も異なる。本論文では、混乱を避けるために、同性愛者の行為や感情を「同性愛」、また、そうした性癖を持つ人々を「同性愛者」と呼ぶことにする。ただし、男性の同性愛者しか意味しない場合は「ゲイ」、女性の同性愛者しか意味しない場合は「レズビアン」の用語を用いる。
- ³ ゲイバーは、主に同性愛者向けのバーであり、ゲイまたはレズビアンを主な顧客とする店、ゲイとレズビアン両方が通う店、さらに、同性愛者と異性愛者両方が通う店などさまざまである。本論文では、同性愛者の顧客が高い比率を占めるバーを一括してゲイバーと呼ぶことにする。
- ⁴ 同性愛嫌悪は、第二次世界大戦後、西欧諸国で共通して見られた現象である (Rizzo, 2010)。
- ⁵ この調査では、回答者一人当たりのインタビュー時間は2時間半にも及んだ。また、調査対象の選択に関して、調査チームは、特定の組織に所属する人間ではなく、年齢、性別、社会階層など多様な基準を用いて、アメリカ人口を代表するようにサンプルを選んだ。
- ⁶ 第二次世界大戦以前から性的マイノリティ解放運動が本格化した 1970 年代半ばまで、ゲイバーは、男性同性愛者だけではなく、女性同性愛者にとってもコミュニティの中心であった (Cartier, 2013)。
- ⁷ 1955 年にサンフランシスコで設立されたアメリカ初の女性同性愛者の人権団体「ビリティスの娘たち」(Daughters of Bilitis, DOB) は、1960 年にサンフランシスコで開催された DOB 第 1 回コンファレンスにおいて、サンフランシスコ以外の地域からの会議参加者のためにゲイバーツアーを組み、また、サンフランシスコと周辺ベイエリアのゲイバーの地図を参加者に配った (Gallo, 2006)。
- ⁸ この時期に、性的指向や性的自認をおおやけに明らかにする、いわゆる「カミングアウト」同性愛者は少しずつ増え、マサチューセッツ州ウスター市 (Worcester) や、アイオワ州デ・モイン市 (Des Moines) のような小さな地方都市にもゲイバーが出現した (D'Emilio, 1983a)。
- ⁹ ニューヨークやサンフランシスコなどの都市では、手入れや営業停止処罰から逃れるために、ゲイバーのオーナーが警察に賄賂を払うことが普通であり、こう

した贈賄と収賄の行為は「ゲイオラ」(gayola)と呼ばれた (Sides, 2009; Cartier, 2013)。

- ¹⁰ ストーンウォール事件に関する詳細な記録については、Carter (2010) を参照されたい。
- ¹¹ 1917 年に米国全土で禁酒法を施行するための憲法修正決議が議会を通過し、1919 年に修正決議は 36 州 (全 48 州) の承認によって成立した。1920 年、修正第 18 条 (the Eighteenth Amendment) が施行され、禁酒法時代が始まった。1933 年に禁酒法は廃止された。
- ¹² Mona's は 1934 年にユニオンストリート (Union Street) でオープンしたが、1936 年にノースビーチ近隣地区の 140 コロンバスアベニュー (Columbus Avenue) に移転し、1939 年に同じノースビーチ地区内の 440 ブロードウェイ (Broadway) に移転した。
- ¹³ Black Cat はもともとバーとして 1906 年にエディ・ストリート (Eddy Street) とメイソンストリート (Mason Street) の交差点の近くで開業したが、1921 年に一時閉鎖した (Boyd, 2003)。1930 年代 710 モントゴメリーストリート (Montgomery Street) に移転して再開店した。
- ¹⁴ ノースビーチ近隣地区は、イタリア系移民が多く居住する地区である。
- ¹⁵ 1950 年代、マタシン協会と DOB という全米の主要な 2 つの同性愛主義団体の本部はいずれもサンフランシスコにあった。しかし、これらの組織はいずれも、既存の異性愛社会・制度に溶け込むことを同性愛者に対して唱えるものであり、同性愛のライフスタイルを正当化し、ゲイバーを当局のハラスメントから守ることを目標にしたものではなかった。
- ¹⁶ Black Cat は 1963 年に閉鎖させられた。
- ¹⁷ 1968 年に SIR のメンバーは約 1,000 人に達し、全米最大の同性愛主義団体となった (D'Emilio, 1989)。
- ¹⁸ カストロ近隣地区のカストロ通り商店街には、ゲイの銀行家が開いた銀行まであった。
- ¹⁹ 故殺とは、被告人が相手に怪我をさせる意図はあったが、殺す意図がなかった場合の殺人である。
- ²⁰ Shilts (1987/2007) は、アメリカにおけるエイズ感染の蔓延、さらにサンフランシスコ、とくにカストロ近隣地区におけるエイズ感染者に対する支援について詳細に記述した。
- ²¹ 1982 年 10 月にシャンティは財政難に陥ったが、サンフランシスコ市当局の支援の下で、本拠をサンフランシスコ市に移転した。
- ²² 組織の名称は「サンフランシスコ・エイズ・アクション・プレジ (San Francisco AIDS Action Pledge)」であった。